

この心如来となる

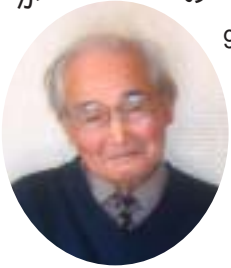
宮城様 三寶寺出版『三願転入』の表紙に、ご自宅のお庭で撮影された花々の写真をご提供いただきましたました。一見の価値があります。



伊藤様 奥様を亡くされ、その悲しみの中から僧籍をとられました。その御心の变化は、娘さんから『腹が立たなくなりましたね。悲しみの方々に『私もそうだったのです』の慈愛の声がけに、南無阿弥陀仏の声が抜苦与楽の働きとなって互いになぐさめられ、穏やかに満たされてゆくのでしょうか。



深島様 サンスクリット学習会の時、『お釈迦様の声が直接今、私に語りかけてくれる』その後、幾度も生死の境をさまよいましたが、90歳になったこのごろ、もう一度お釈迦様の教え、親鸞聖人の呼び声に立ち上がって、報恩講にご出席されました。



『サンスクリット学習会出席をめざします』と力強く宣言!!

林様 『昨年は病氣治療中でした。報恩講に参加できたことに喜びを感じます。瓦懇志をさせていただきます。風雪を耐えた瓦をなでながら、阿弥陀仏に合掌されました。』



柴野様 『帰敬式(ききょうしき)にみなさんと京都に行きましよう! 生きている内に法名を受けましよう。慶弔資金を出させてもらっても良いです。60年間一生懸命働いてきましたので、すこしでも仏法に恩返しができるばと思っておりますよ。また、困っている人がいたら、ボランティアでお伺いします。三寶寺に声をかけてください。今の段階では一二人の方々だけしかボランティアできませんがどうぞよろしく願います。』



町本様 (龍鳳寺の前坊守) 『町本(住職)は法事があり出席できませんでしたが、親鸞聖人への報恩が毎年教え受け継がれていくことに喜びを感じます。11月27日、28日 本山の報恩講に会うために上山してまいります。』



名桐様 名桐様のお子様は本当によくお手伝いをいつもしてくださいます。小さい時から人々のお役に立つこと、大切なことを、両親が教えられているのでしょ。



三寶寺へのお手紙と電話

真壁様 『先生が宗教法人取得の為に歩んでおられる。もう少しですね』この言葉嬉しい限りです。

押田様 『学校で教えられたように、国際発展への道をめざします。今年、中国で博士課程を終わり、中国と日本を結ぶ会社に就職が決まりました。』

公平様 『気持をおくらせていただきました。今、幸福を感じています。』

宗教法人三寶寺 二〇〇六年申請への歩み

二〇〇五年十月三日に東京教務所に宗教法人申請書類を提出、十一月十七日十四時、東京教務所所長 禿(かむろ) 信敬氏、東京宗務出張所所長 関崎 幸孝氏、宗教法人申請担当 関 得道氏、現地視察二名(湯口氏他) 御来寺。

『十二月中旬に包括団体証明書を発行できます。』『これまで大変な努力を積み重ねてまいりましたね』、とうれしいお言葉をいただきました。禿所長は、阿弥陀さまの前にすわられ合掌をされ『特にお腹から首にかけてすばらしいですね』、この言葉に本物を知ると感じました。体内に、三寶寺の建立願い文、ご支援者の芳名が入っている。その願いを感じてくれたのです。十二月二十六日寺院設立承認人申請書三寶寺目崎薫、宗教団体代表者証明書、宗教法人団体であることの証明書、寺法認第一四六七号真宗大谷派宗務所宗教法人「真宗大谷派」代表役員宗務総長熊谷宗恵。

これらは、包括団体証明書で、これらをもつて二〇〇六(平成十八)年一月五日神奈川県学事振興課(私学宗教課)に他書類と共に提出、三月頃宗教法人登記の予定です。この時二男が歴史的立ち会い人になりました。提出物の要求にドキドキしたそうです。

今こそ、必ず寺が世に必要なのです。教員から住職になって、寺を世に示す新寺建立です。建立の祝いを必ず皆さまと開催できますように。 合掌